

与謝野町地域公共交通会議（ネットワーク全体の評価）

1. 協議会が目指す地域公共交通の将来像

公共交通の将来像

生活交通確保維持改善計画【地域内フィーダー系統確保維持計画】

与謝野町の公共交通は、丹後地域唯一の鉄道である京都丹後鉄道宮豊線と丹後海陸交通株式会社が運行する路線バスにより構築されている。京都丹後鉄道宮豊線は町内唯一の駅である与謝野駅を中心に町域を横断する形で運行されており、一方、路線バスは岩滝地域を中心に宮津市、伊根町を阿蘇海沿いに結ぶ系統と、岩滝地域、野田川地域、加悦地域と町域のほぼ中心を縦断する系統となっている。これらの路線バスは、本町のみならず近隣の市町との地域間の輸送手段として地域間幹線系統の役割を担っており、特に高齢者、通学者が利用している。

しかし、幹線から離れた地域においては、自家用自動車を中心とした移動にならざるを得ないものの、人口減少、高齢化が進行しており、買い物、通院等の生活に必要な交通手段の確保が求められている。

このため、本事業では、これらの幹線から離れた地域に居住している住民の日常生活に必要な交通手段を確保するため、幹線へアクセスする路線バス運行に取り組むものである。

公共交通ネットワークのイメージ図

※別添で添付して下さい。

2. 目標設定及びその達成状況の評価に関する事項

奥滝線、加悦奥・石川線、岩屋線の合計利用者数が延べ人数 3,900 人となる。

3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取り組み内容

(1) 取組経緯

与謝野町の南北を縦断する幹線道路から離れた地域と路線バス（幹線系統）とを接続させるバスとして平成 21 年 3 月 16 日から町営により運行を開始。

3 年間の実証運行を経て平成 24 年 3 月 17 日から本格運行を開始。

協議会の開催状況と主な議論

【与謝野町地域公共交通会議】

令和5年1月30日 持続可能な公共交通について 他

令和5年3月27日 予約型乗合交通の実証運行について 他

令和5年5月26日 地域内フィーダー系統の確保について 他

令和5年6月28日 令和6年度地域内フィーダー系統確保維持系統計画を承認

(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等

補助対象事業

地域公共交通確保維持改善事業				
事業	実施主体	着手・実施期間	種別	事業概要
地域内フィーダー系統補助事業	与謝野町	R4.10 ～R5.9	フ	路線バス（幹線系統）から離れた地域で、コミュニティバスを丹後海陸交通㈱へ委託して運行。

【種別】 幹：地域間幹線系統、フ：地域内フィーダー系統、策：計画策定事業、推：計画推進事業
利策：利便増進計画策定事業、利推：利便増進計画推進事業

その他補助事業			
事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
なし			

非補助事業

事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
なし			

(3) 生産性向上の視点から取り組んだ事業

※「(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等」のうち、生産性向上を目指して取り組んだ事業について、その内容を記入して下さい。

※上記以外の事業においても、該当する事業・取組等があれば、その内容を記入して下さい。

事業	取組内容	効果目標
独自の時刻表の発行	鉄道や路線バス（幹線系統）も含めた公共交通のネットワークが一目で分かる公共交通マップ・時刻表を作成して施設に配架。	奥 滝 線、 加 悦 奥・石川線、岩屋線の合計利用者 延 べ 人 数 3,900 人
利用者アンケート等の実施	利用者の乗降調査および聞き取り調査、区長連絡協議会での実績報告・意見聴取をおこなった。	
自動車運転免許の自主返納支援事業との連携	運転免許を自主返納した高齢者のうち希望者に対し、代替となる交通手段として、コミュニティバスの回数券等を配布した。	

4. 具体的取組に対する評価

対象期間における年間利用者数（3路線合計）は3,789人、年間運輸収入は687,525円であった。路線ごとの実績は次のとおり。

路 線	R5 年度実績	前年度実績
奥滝線	1,450 人	1,508 人
加悦奥・石川線	1,564 人	1,470 人
岩屋線	775 人	769 人
合 計	3,789 人	3,747 人
目標値	3,900 人	
達成率	97.15%	

奥滝線、加悦奥・石川線、岩屋線の3路線合計が3,900人となることを目標としていたが、達成率は97.15%と少し届かなかった。目標値の設定についてはR5年度年間見込値に5%の利用増を見込んだ数字としていたため、見込値通りの結果となったとも考えられるが、自然減、社会減などの影響により現状維持となった。

路線別で見ると、加悦奥・石川線、岩屋線は前年度から増加、奥滝線は前年度から減少となったが、全ての路線で概ね前年度と同水準となった。これは年間を通して前年度の利用者数から大きな変化はなく、週に複数回乗車されるリピーターや新規利用者数が低調だったことが要因の一つだと分析する。

令和5年度においてはダイヤ改正による変更、便数や停留所についても変更がなかったためバス環境としても前年度から大きな変化はなかった。令和6年度は町営バスの一部路線を予約型乗合交通へ再編する大きな見直しがあるため、利用しやすさや利便性を向上することでより多くの方々に利用してもらえるよう改善する。

5. 自己評価から得られた課題と対応方針

課 題	課題への対応方針
更なる生産性の向上	路線バス（幹線系統）の見直しと合わせた、路線・ダイヤ等の検討 町営バス路線の一部を予約型乗合交通に置き換え
既存利用者数の維持	利用しやすいバス停乗降場所へ新設、移設の検討 新たに導入する予約型乗合交通を利用してもらえるよう分かりやすい使い方の広報周知の徹底
新規利用者の獲得	運行ルートの再編（町営バス路線の一部を予約型乗合交通に置き換え） 新たに導入する予約型乗合交通を利用してもらえるよう分かりやすい使い方の広報周知の徹底（各戸への広報・利用の呼びかけ等）

与謝野町地域公共交通会議（これまでの経緯）

1. 昨年まで（直近）の二次評価の活用・対応状況

昨年まで（直近）の二次評価における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
<p>幹線に接続する交通体系の構築という基本方針のもと、利用者ニーズに即したネットワークのあり方を検討していることは評価できる。</p> <p>公共交通のみでは地域の移動ニーズに対応しきれない場合には、住民の協力を含む関係者の連携のもと、他の輸送手段による補完を行いながら、移動手段を確保することも考えられる。</p>	<p>幹線に接続する交通体系の構築という基本方針のもと、利用者ニーズに即したネットワークのあり方を検討を続け、次年度での実施で関係者との調整が出来た。</p> <p>交通事業者だけでは対応できない地域に対し、地域住民の協力を含む関係者と共創により移動手段を確保。</p>	<p>次年度において町営バスの一部路線を予約型乗合交通に置き換える形で実証運行を開始。</p> <p>地域の移動ニーズについて、交通事業者だけでは対応できない地域に対し、地域住民の協力のもと自家用有償運送による移動手段を確保する。</p>

2. アピールポイント、特に工夫した点など

運行期間中におけるバス路線再編など大きな変化がない年であったため、利用者への聞き取りやアンケートなどにより利用しやすいダイヤ設定など、移動ニーズに即した路線となるよう改善を図った。

また、過去から継続して実施している町交通安全担当部署と調整し、高齢者の運転免許自主返納支援事業での乗車券の配布など、他部署・機関と連携した利用促進を計画・調整し、引き続き実施した。

一方で、これまでから検討をしてきた幹線に接続する交通体系の構築という基本方針のもと、利用者ニーズに即したネットワークのあり方について、町営バスの一部路線を予約型乗合交通に置き換えて実証運行を開始することで調整を図った。交通事業者だけでは対応できない地域に対しては、地域住民の協力のもと自家用有償運送による移動手段を確保することで地域を補完を行う。今後についても商業事業者などとも連携し、外出機会を創出することで利用促進を促す取り組みを実施したい。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 6年 1月 日

協議会名:与謝野町地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

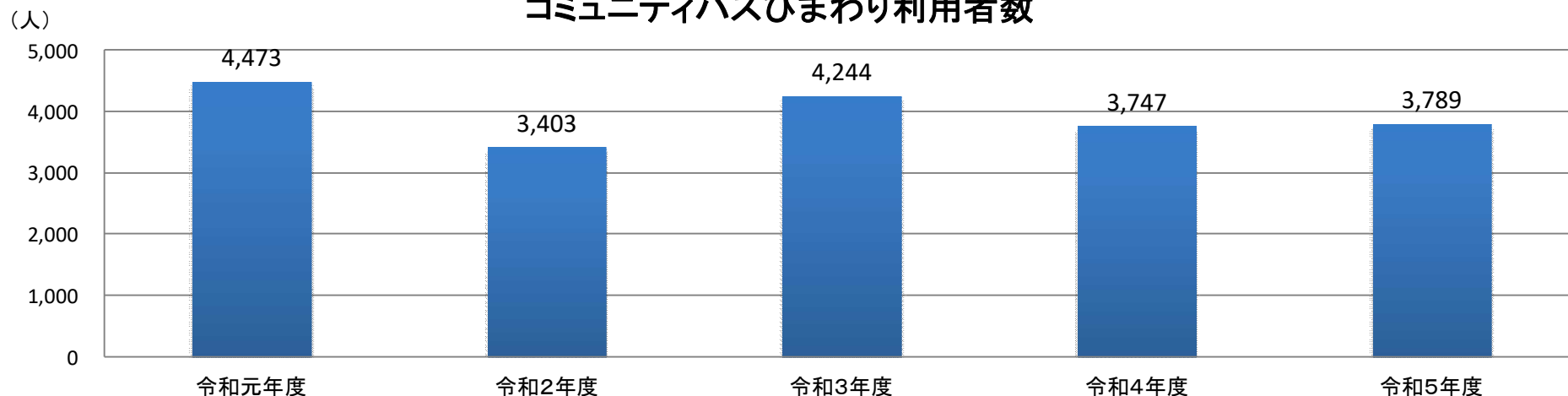
①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
丹後海陸交通株式会社	鹿ノ熊～山河公民館～加悦庁舎～野田川庁舎の運行	幹線に接続する交通体系の構築という基本方針のもと、利用者ニーズに即したネットワークのあり方を検討を続け、次年度での実施で関係者との調整が出来た。 交通事業者だけでは対応できない地域に対し、地域住民の協力を含む関係者と共創により移動手段を確保。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B
丹後海陸交通株式会社	岩屋上～野田川庁舎～ウイル		A	計画どおり事業は適切に実施された。	
丹後海陸交通株式会社	加悦奥十番組～野田川庁舎～川上上～香河上～加悦庁舎の運行		A	計画どおり事業は適切に実施された。	
				「奥滝線、加悦奥・石川線、岩屋線の合計利用者数が延べ人数3,900人」という目標に対して、利用者実績は3,789人となり、達成率97.15%とわずかに届かなかった。	次年度において町営バスの一部路線を予約型乗合交通に置き換える形で実証運行を開始し、交通体系の再編を行う。 地域の移動ニーズについて、交通事業者だけでは対応できない地域に対し、地域住民の協力のもと自家用有償運送による移動手段を確保する。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

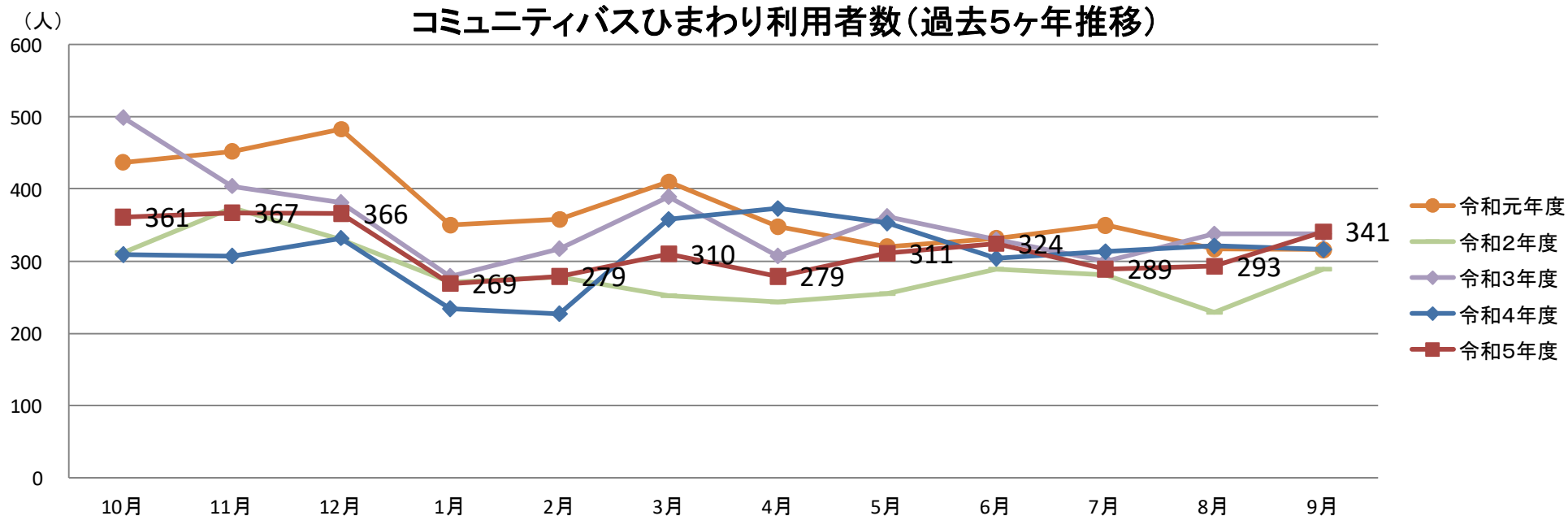
令和 6年 1月 日

協議会名：	与謝野町地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統）
地域の交通の目指す姿 （事業実施の目的・必要性）	<p>与謝野町の公共交通は、丹後地域唯一の鉄道である京都丹後鉄道宮豊線と丹後海陸交通株式会社が運行する路線バスにより構築されている。京都丹後鉄道宮豊線は町内唯一の駅である与謝野駅を中心に町域を横断する形で運行されており、一方、路線バスは岩滝地域を中心に宮津市、伊根町を阿蘇海沿いに結ぶ系統と、岩滝地域、野田川地域、加悦地域と町域のほぼ中心を縦断する系統となっている。これらの路線バスは、本町のみならず近隣の市町との地域間の輸送手段として地域間幹線系統の役割を担っており、特に高齢者、通学者が利用している。</p> <p>しかし、幹線から離れた地域においては、自家用自動車を中心とした移動にならざるを得ないものの、人口減少、高齢化が進行しており、買い物、通院等の生活に必要な交通手段の確保が求められている。</p> <p>このため、本事業では、これらの幹線から離れた地域に居住している住民の日常生活に必要な交通手段を確保するため、幹線へアクセスする路線バス運行に取り組むものである。</p>

コミュニティバスひまわり利用者数



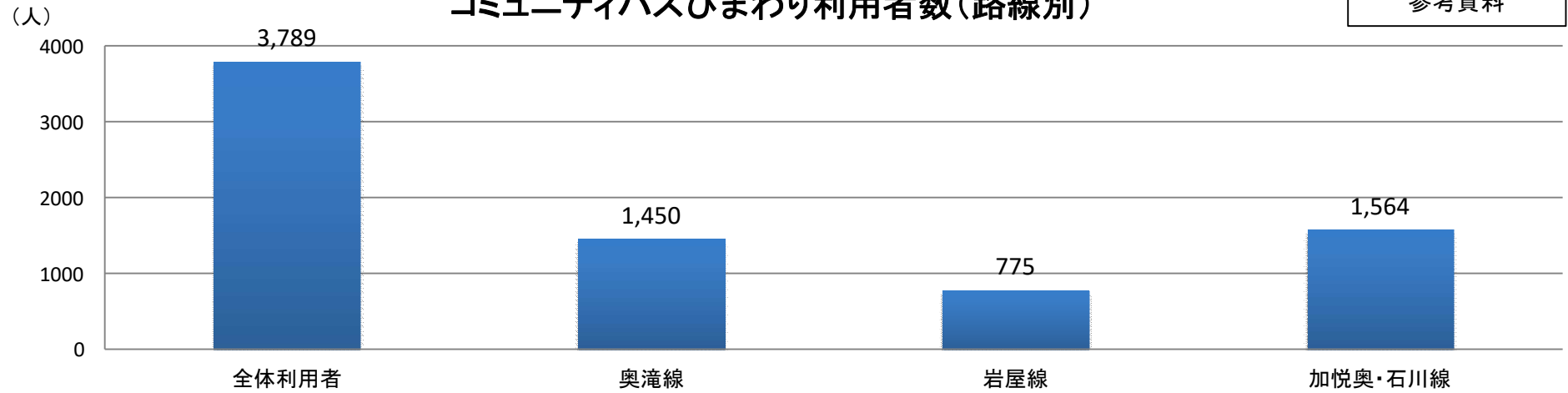
コミュニティバスひまわり利用者数(過去5ヶ年推移)



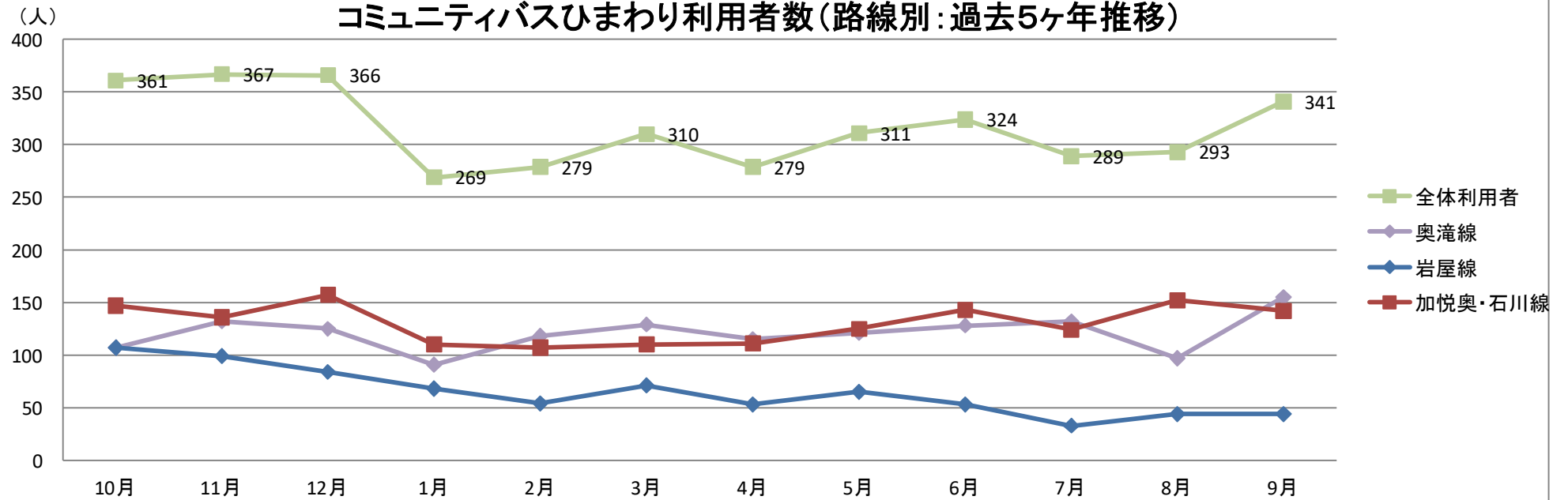
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
令和元年度	437	452	483	350	358	410	348	320	332	350	317	316	4,473 人
令和2年度	312	374	330	271	278	252	243	255	289	281	229	289	3,403 人
令和3年度	499	404	381	279	317	389	307	362	330	300	338	338	4,244 人
令和4年度	309	307	332	234	227	358	373	353	304	313	321	316	3,747 人
令和5年度	361	367	366	269	279	310	279	311	324	289	293	341	3,789 人

コミュニティバスひまわり利用者数(路線別)

参考資料



コミュニティバスひまわり利用者数(路線別:過去5ヶ年推移)



	R4年度						R5年度						計
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
全体利用者	361	367	366	269	279	310	279	311	324	289	293	341	3,789 人
奥滝線	107	132	125	91	118	129	115	121	128	132	97	155	1,450 人
岩屋線	107	99	84	68	54	71	53	65	53	33	44	44	775 人
加悦奥・石川線	147	136	157	110	107	110	111	125	143	124	152	142	1,564 人